

七里ガ浜海岸の養浜事業に関する意見交換会 概要

日 時：平成26年5月17日(土) 10:00～11:50

場 所：鎌倉市腰越学習センター 第4集会室

【概要】

1 あいさつ

藤沢土木事務所よりあいさつを行った。

2 七里ガ浜地区の養浜（侵食対策）について

- ・ 資料1に基づき、パワーポイントにて、「神奈川県 of 侵食対策への取り組み」について説明した。
- ・ 資料2に基づき、パワーポイントにて、「七里ガ浜の養浜（侵食対策）」について説明した。

3 養浜事業の進め方について

- ・ 資料3に基づき、パワーポイントにて、「養浜事業の進め方」について説明した。

4 意見交換

主な意見は次のとおり（○参加者、●事務局）

- これまで養浜を実施しているが、成果がでてきているのか。また、侵食の原因がわからないなかで、養浜をするのは税金の無駄遣いではないか。
- 浜に砂を入れてもそのままの形状で残ることはなく、波で流された砂が広がり砂浜を形成していく。
養浜をする際には、養浜材の質が重要で適正な材料を投入すればよい。
また、近年では、高波浪が多い状態となっているが、駐車場の東側から稲村ガ崎の間で汀線変化が少ない。これは、波向きの影響もあると思うが、その他の要素としては、養浜が考えられる。
- 養浜を実施していない小動側の砂浜が減っているとのことだが、腰越漁港の拡張が影響しているのではないか。
- 小動漁港が拡張したことにより、漁港西側に砂が溜まっているが、逆に、江ノ島大橋側の砂浜が減っていることから、江ノ島側から小動側に砂が移動したと考えられる。
ただし、漁港の拡張の段階で、先の一文字堤が建設されており、その形状がしばらく続いたので、そのときに砂が吸われた可能性はある。

- 県としても小動側が近年、減っていることを確認しているので、モニタリングを継続し、注視していきたい。
- 皆様からご意見をいただき、養浜の効果や侵食の原因などの調査を進めるため、カメラを設置し、今年度から砂浜の変化などのモニタリングを開始する。
- 砂を海岸に盛っても大型台風が来ると、沖合いに持って行かれる。砂を埋め立てて海岸線をきれいにするのはよいが、道路の海側に防波堤のようなものを設置した方がよいのではないか。
- 台風等の高波浪時に砂は持っていかれるが、流出した砂は、その後の波で戻ってくることも確認している。
- 沖合いに流出した砂は、戻って来ないのではないか。
- とてつもない高波浪時はこの限りではないが、養浜材の粒径を考慮して養浜を実施すればよく、もし粗い材料を養浜材に使用すれば、粗い材料は移動が少ないので波打ち際に残る。しかし、粗い材料を入れると、七里ガ浜の現地の状況と異なってしまう。いずれにしても材料によって考えて方が違ってくる。
- 先程の説明で海浜面積が4,000m²減少することだが、飛砂も考慮するとどれくらいの体積になるのか。この減少量が養浜量の目安になるのではないか。
- 七里ガ浜は岩盤なので、層厚が2から3メートル位になると思う。飛砂量を考慮すると年間で約800m³が減少することとなる。
また、継続的にモニタリングをして、高波浪で持って行かれた砂が確実に戻っているかのチェックも必要になると思う。
- 海草の調査をしている人がおり、姥ガ谷の海草が激減していると聞いている。私は、以前に養浜で入れたヘドロのような材料のせいだと思っている。養浜材には注意してもらいたい。
- 養浜材の質については、よく考えなければならないと思っている。しかし都市化により背後地からの砂の供給が厳しい中で、県としても養浜材の確保に苦勞している。養浜材については、引き続き、皆様と相談していきたいと思っている。
- 姥ガ谷の磯にだいぶ砂が被っていると聞いているので、漁師さんに聞くのがよいのではないか。
- 海底の状況もモニタリングしながら、検証していきたい。また、その結果についても、皆様に示していきたい。

- 構造物を造ったり、何かやれば必ず弊害がでるので、養浜をするにしてもできるだけ、最小限にしてほしい。
駐車場東側と稲村ガ崎の間の道路が崩れたときに盛った砂が固まっているが砂に何を混ぜたのか。
- その場所は、鎌倉市の公園課の所管であったため、市の公園課が防災工事として行ったものであり、養浜工事ではない。
- 県では、平成23年3月に侵食対策計画を策定し、その中で、背後地盤を構造物ではなく、砂で守るといような計画をしている。七里ガ浜は、岩盤で構成されており難しい状況であるが、モニタリングをしながら、皆様に情報を提供して進めていく。
- 七里ガ浜の西と東では砂の質が違い、東側は砂鉄が混じっており、西側は貝殻が混じり白くきれいな砂浜であった。また、この地域は、岩盤でできており、そこに海草がたくさん付着しており、それにより砂の移動が止められていたと思う。侵食が進んでいるところは、海草が少ないのではないかと思うので、岩盤の調査もしていただきたい。また、季節変動等もあると思う。
- 2007年に海底の調査を実施しているので、このような調査なども実施し、経過確認も実施していきたい。
- 養浜事業は大きな事業であり、自然との闘いであると思う。七里ガ浜の海岸の景観をいつまでも保つためには、非常な努力が必要であるとも思うのでがんばって事業を進めていただきたい。無駄な税金の投入ではないかという人もいるが、そういうことではなく、温暖化の影響で海面上昇もあるという中で、調査研究しがんばって事業を進めていただきたい。
- 養浜工事の内容について、もう少し説明していただきたい。
- 養浜材は、茅ヶ崎漁港西側から採取し、プリンス駐車場の東側に1,200m³の養浜を実施する。養浜材の運搬については、4 tのダンプトラックを使用し、ダンプトラックの手配はこれからであり、道路の渋滞状況等により異なるが、日当たり約50台のダンプで搬入することになる。
5月26日（月）あたりから、プリンス駐車場の仮設工事に入り、ダンプトラックの搬入期間は10から15日間を予定している。工事全体としては、3～4週間程度の期間となる。
- この前のときは、ファーストキッチンの前に砂を入れるという話だったが、駐車場の東側に砂を入れるのか。

- 前回お話ししたときは、駐車場前の砂浜が減少しており、護岸の基礎が露出していることや、波が護岸に直接打ちつけていることから、護岸背後の空洞化を懸念していた。その後、レーダー探査を進めた結果、多少の緩みが確認されたものの、早急に、対応が必要といった状態でないことが確認された。

護岸の前に、礫のようなものを投入すれば、護岸の防護効果が期待できるが、砂を投入してもすぐに波により拡散してしまうため、護岸の防護は期待できない。

砂を投入するのであれば、侵食が著しい駐車場の東側に間に砂を盛ることが最も効果的であり、また護岸の前面に砂を盛ることにより、高波浪時にも護岸の防護が期待できる。
- ちょっと調査しただけで、養浜の場所が変わる。そんなに簡単に工事をしていいのか。
- 駐車場前面については局所的な防災工事が必要ではないかと考えていた。養浜というよりは、護岸の防災工事としてのお話をしていた。
- 磯に砂が被っているという話をしたが、漁師さんの話を聞いたか。聞かないでやってしまうのか。
- 由比ガ浜では養浜を実施しているが実施する前は、鎌倉漁業組合に連絡をしているが、養浜により、漁に影響がでているといった話は聞いていない。

腰越漁業組合については、まだ連絡していないが、七里ガ浜の養浜前には連絡する。
- 意見交換会と聞いていたが、養浜計画の説明をしている。多くの人から反対意見が出ていると思うが工事を実施するのか。
- 地元の方々からは養浜をやってほしいとの意見もいただいている。
- 七里ガ浜海岸は、侵食傾向にあり、何もやらなければ侵食が進行するので、1,000m³程度の養浜は継続する必要があると考えている。

また、養浜を実施しながらモニタリング調査も進めるので、経過観察をし、データがまとまった段階で、ご報告させていただきたい、その中で、養浜の質や量など、皆様のご意見を聞きながら事業を進めていきたい。また、調査の結果、養浜の効果や必要性がないとわかれば、計画の延期や中止なども考えていきたい。
- 本日の資料や議事録は藤沢土木事務所のホームページに掲載する。

データが整った時点で、意見交換会を開催するので、またご意見をいただきたい。

以上